

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(耐震計算書:原子炉本体の基礎の地震応答計算書)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別、目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計 申し送り事項 No.79	審査会合 (2020/3/10)	-	設置許可 まとめ資料 4条	機器・配管系における手法の 変更点について	4条-別紙7.添 付資料-5	原子炉圧力容器スタビライザのばね定数について、既往知見や試験結果等との比較による妥当性確認結果を詳細設計段階で説明すること。	今回回答	実機を想定したFEMモデルにより原子炉圧力容器スタビライザのばね定数を算定し、今回工認におけるばね定数との比較を実施しました。実機を想定したFEMモデルより算定したばね定数と今回工認のばね定数が同等であり、今回工認におけるばね定数は妥当であることを確認しました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定 のP.57~60 (通し頁P.95~98)	分類【E】
詳細設計 申し送り事項 No.80	ヒアリング (2020/2/18)	-	設置許可 まとめ資料 4条	機器・配管系における手法の 変更点について	4条-別紙7.添 付資料-5	既工認から変更したばね定数について既往知見や試験結果との比較を詳細設計段階で説明すること。	今回回答	実機を想定したFEMモデルにより原子炉圧力容器スタビライザのばね定数を算定し、今回工認におけるばね定数との比較を実施しました。実機を想定したFEMモデルより算定したばね定数と今回工認のばね定数が同等であり、今回工認におけるばね定数は妥当であることを確認しました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定 のP.57~60 (通し頁P.95~98)	分類【E】
詳細設計 申し送り事項 No.81	審査会合 (2020/3/10)	-	設置許可 まとめ資料 4条	機器・配管系における手法の 変更点について	4条-別紙7.添 付資料-5	ガンマ線遮蔽壁頂部の床応答スペクトル(NS方向)の比較で、影響検討モデル2(スタビライザばね定数:既工認値)に比べ今回工認モデル(スタビライザばね定数:精緻化値)の床応答スペクトルが大きくなっている理由について、原子炉圧力容器1次と原子炉建物2次の固有周期の近接度合いの観点も含め、詳細設計段階で説明すること。	今回回答	原子炉圧力容器ベデスタルの基部と接続される質点の床応答スペクトルを確認した結果、原子炉圧力容器の振動が卓越する第4次モードの震度は、NS方向では影響検討モデル2の方が小さいが、EW方向では今回工認モデルの方が小さい。第4次モードでは、原子炉圧力容器と共にガンマ線遮蔽壁の振動も卓越するため、この傾向により、ガンマ線遮蔽壁頂部でのNS方向とEW方向で床応答スペクトルの傾向が異なる旨理由を追記しました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定 のP.85,86,112~114(通し頁P.123,124,150~152)	分類【E】
詳細設計 申し送り事項 No.82	ヒアリング (2020/2/18)	-	設置許可 まとめ資料 4条	機器・配管系における手法の 変更点について	4条-別紙7.添 付資料-5	RPVスタビライザの各評価部位におけるばね定数算出にあたり適用する規格基準及び温度条件の考え方を詳細設計段階で説明すること。	2022/1/19 2022/1/26 今回回答	RPVスタビライザの各評価部位におけるばね定数算出にあたり適用する規格基準及び温度条件を記載しました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定 のP.48 (通し頁P.86)	分類【E】

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(原子炉本体の基礎の地震応答計算書)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別 目録番号	図書名称	該当頁					
1	2022/1/19	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.301,334	表4-5、表5-27の対象設備(ウェルシールペローズ、ラテラルレストレイント等の記載要否)について、確認して説明すること。	今回回答	表4-5には設備評価実施有無に関わらず、応答結果の確認を目的としてばねでモデル化されている設備については全て、ばね反力を記載しました。表5-27は設計用荷重の位置づけのため、設備評価に使用するばね反力のみ記載しています。	NS2-添2-002-01改01「VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書」P.183,302	
2	2022/1/19	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.301,334	ウェルシールペローズ、燃料交換ペローズの健全性について補足説明資料で説明すること。	後日回答			
3	2022/1/19	NS2-補-027-02	補足説明資料	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.36	設計用荷重 I について、基本ケースの結果を1.2倍、ばらつきケースを1.0倍して設定していることを明確に説明すること。	今回回答	設計用荷重 I について、基本ケースの結果を1.2倍、ばらつきケースを1.0倍して設定していることを明確に説明すること。 (旧)設計用荷重 I (材料物性の不確かさを考慮した設計用荷重)は、基本ケースの地震応答解析結果から得られた荷重に対して、材料物性の不確かさを考慮したケース(不確かさケース)の地震応答解析結果から得られた荷重を考慮して作成する (新)設計用荷重 I (材料物性の不確かさを考慮した設計用荷重)は、基本ケースの地震応答解析結果から得られた荷重を1.2倍した値及び材料物性の不確かさを考慮したケース(不確かさケース)の地震応答解析結果から得られた荷重を1.0倍した値を包絡して作成する	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」1. 建物-機器連成解析における材料物性の不確かさを考慮した設計用荷重の設定についてのP.6(通し頁P.10)	
4	2022/1/19	NS2-補-027-02	補足説明資料	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.154	影響検討用モデルについて理論式ではね定数を算出しているが、境界条件を含めた適切性について検討し、必要に応じてシェルモデルによるFEM解析で算出した結果と比較して説明すること。	後日回答			
5	2022/1/26	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.32	大型機器系の動的解析に用いる減衰定数について、どのように設定するか説明すること。	今回回答	3.3.1 動的解析に解析に用いる減衰は、モード減衰定数を組み合わせて算出する旨及び減衰定数の設定方法について追記しました。	NS2-添2-002-01改01「VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書」P.32,33	
6	2022/1/26	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書		床応答曲線作成時における材料物性の不確かさの考慮の内容と、建物-機器連成解析における材料物性の不確かさの考慮の内容の差異について、考え方を説明すること。	今回回答	設計用床応答スペクトル及び建物-機器連成解析結果に基づく設計用荷重の作成時に考慮する材料物性の不確かさ(地盤物性の不確かさ)としては、共に地盤物性 $\pm\sigma$ であり共通的なものとなります。 設計用床応答スペクトルの作成方法としては、地震応答解析(基本ケース)に基づき、床応答スペクトルを作成し、機器の固有周期のずれや地盤物性、建物剛性等といった因子の変動に伴う応答スペクトルの変動の影響をカバーすることを目的として、周期軸方向に $\pm 10\%$ 拡幅します。また、地震応答解析(不確かさケース)に基づき作成した床応答スペクトルを包絡させることにより、材料物性の不確かさ(地盤物性の不確かさ)を考慮します。 設計用荷重作成方法としては、基本ケースの地震応答解析結果から得られた荷重に対して、材料物性の不確かさを考慮したケース(不確かさケース)の地震応答解析結果から得られた荷重を包絡させることにより、材料物性の不確かさ(地盤物性の不確かさ)を考慮します。 地震応答解析(不確かさケース)に基づき作成した条件を包絡させることにより、材料物性の不確かさ(地盤物性の不確かさ)を考慮する方法からも、材料物性の不確かさの考慮の内容に相違はないと考えます。		

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別、目録番号	図書名称	該当頁					
7	2022/1/26	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書		「表2. 2. 2-5 主要設備の地震応答解析結果(比較ケース1, NS方向)」及び「表2. 2. 2-6 主要設備の地震応答解析結果(比較ケース1, EW方向)」に示されるガンマ線遮蔽壁基部のせん断力の値について、設置変更許可時の説明資料から変更されている理由を説明すること。	今回回答	設置許可時の資料では、原炉圧力容器ベDESTAL頂部のせん断力を記載していました。記載適正化によりガンマ線遮蔽壁基部のせん断力を記載したため、設置許可時の資料から変更となりました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定のP.83.84(通し頁P.121,122)	
8	2022/1/26	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書		「図2. 2. 2-7 ガンマ線遮蔽壁頂部(質点番号53)における床応答スペクトル(NS方向、基準地震動Ss-D、減衰定数1.0%)」及び「図2. 2. 2-8 ガンマ線遮蔽壁頂部(質点番号54)における床応答スペクトル(EW方向、基準地震動Ss-D、減衰定数1.0%)」について、NS方向とEW方向で床応答スペクトルが異なる理由を説明すること。	今回回答	原子炉圧力容器ベDESTALの基部と接続される質点の床応答スペクトルを確認した結果、原子炉圧力容器の振動が卓越する第4次モードの震度は、NS方向では影響検討モデル2の方が小さいが、EW方向では今回工認モデルの方が小さい。第4次モードでは、原子炉圧力容器と共にガンマ線遮蔽壁の振動も卓越するため、この傾向により、ガンマ線遮蔽壁頂部でのNS方向とEW方向で床応答スペクトルが異なる旨の理由を追記しました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定のP.85.86,112~114(通し頁P.123,124,150~152)	
9	2022/1/26	NS2-補-027-02	補足説明資料	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.140,141	既工認からの設定変更の影響検討結果として、応答が変わらない設備(炉内構造物等)について、その理由を説明すること。	今回回答	固有値解析結果にて、炉心シュラウド及び燃料集合体の固有周期がばね定数変更前後で変わらないことから、ばね定数変更がそれら設備の応答特性に大きく影響しないため、応答が変わらないと考えられる旨の理由を追記しました。	NS2-補-027-02改01「建物-機器連成解析に関する補足説明資料」2. 建物-機器連成解析における解析モデルの設定のP.85.86(通し頁P.123,124)	

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書)

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	目次	記載適正化に伴いページ番号を変更したことに伴い, 目次を適正化しました。	2022/7/21	
2	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.8	地震応答解析モデルについて, 原子炉格納容器スタビライザ, ウェルシールベローズの説明を追記しました。 (下線部参照) (旧)原子炉格納容器はシヤラグの剛性と等価なばねで原子炉建物と結合され, 下端は原子炉建物と剛に結合される。 (新)原子炉格納容器はシヤラグの剛性と等価なばねで原子炉建物のEL29.392mと、 <u>ウェルシールベローズの剛性と等価なばねで原子炉建物のEL34.800mと結合され, 下端は原子炉建物と剛に結合される。ガンマ線遮蔽壁は、原子炉格納容器スタビライザの剛性と等価なばねで原子炉格納容器のEL29.392mと結合される。</u>	2022/7/21	
3	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.8	水中構造物のモデル化について, 付加質量と排除水質量を考慮している旨が分かるように記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)また, 原子炉圧力容器内の燃料集合体, 炉心シールド等のモデル化においては, 炉水による付加質量を模擬するため仮想質量を考慮する。 (新)また, 原子炉圧力容器内の燃料集合体, 炉心シールド等の水中構造物のモデル化においては, <u>水中構造物の相互影響を精緻に評価するために, 付加質量及び排除水質量を考慮する。</u>	2022/7/21	
4	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.8	建物部分のばね定数(回転ばね等)の値について, 建物の地震応答計算書との紐づけを追記しました。(下線部参照) (旧)なお, 原子炉建物のスケルトン曲線及び地盤ばね定数については, VI-2-2-2「原子炉建物の地震応答計算書」に記載の値を使用する。 (新)なお, 原子炉建物のスケルトン曲線並びに燃料プール壁, 内部ボックス壁による拘束効果を考慮した <u>回転ばね及び地盤ばねの諸元</u> については, VI-2-2-2「原子炉建物の地震応答計算書」に記載の値を使用する。	2022/7/21	
5	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.9	適正化箇所No.4の修正に伴い, 記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)なお, 原子炉建物の地盤ばね定数については, VI-2-2-2「原子炉建物の地震応答計算書」に記載の値を使用する。 (新)なお, 原子炉建物の地盤ばねの <u>諸元</u> については, VI-2-2-2「原子炉建物の地震応答計算書」に記載の値を使用する。	2022/7/21	
6	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.12	原子炉建物部分の鉛直方向の地震応答解析モデル図の表記を, 原子炉建物地震応答解析モデルと原子炉本体地震応答解析モデルの記載の整合を図るため適正化しました。	2022/7/21	
7	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.22	NS2-補-027-02のマスクング箇所と整合を図り, マスキング箇所を適正化しました。	2022/7/21	
8	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.33	Kの式の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧) $K=0.1 \cdot n \cdot (1-H) / 40 \cdot Z \cdot \alpha$ (新) $K=0.1 \cdot n \cdot (1-H/40) \cdot Z \cdot \alpha$	2022/7/21	
9	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.36	4.2(1)「なお, 」以降の文について, 静的地震力に関する記載であることを明確にしました。(下線部参照) (旧)なお, 鉛直方向は, 「3.3.2 静的解析」において算定した静的震度を一律に適用する。 (新)なお, 鉛直方向の静的解析は実施せず, 「3.3.2 静的解析」において算定した鉛直震度を一律に適用する。	2022/7/21	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
10	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.303	設計用荷重 I について, 基本ケースの結果を1.2倍, ばらつきケースを1.0倍して設定していることを明確にした説明に記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)ここで, 前項の地震応答解析から得られた地震力に対し, 材料物性の不確かさを考慮して作成した地震力を設計用荷重 I という。 (新)ここで, 前項の地震応答解析から得られた地震力を1.2 倍した値に対して, 材料物性の不確かさを考慮した地震応答解析から得られた地震力を1.0 倍した値を包絡した地震力を, 設計用荷重 I という。	2022/7/21	
11	NS2-添2-002-01改01	VI-2-2-1 炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.319,335	設備設計用荷重として, グリッド反力を追記しました。なお, 表の追加に伴い, 表番号を適正化しました。	2022/7/21	
12	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.2	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)建物-機器連成解析における材料物性の不確かさを考慮した設計用地震荷重の設定について (新)建物-機器連成解析における材料物性の不確かさを考慮した設計用荷重の設定について	2022/7/21	
13	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.5	スペクトルモーダル解析における材料物性の不確かさの考慮に関する記載は, 一般論を示しており, 不要と考えられるため記載を削除しました。(下線部参照) (旧)スペクトルモーダル解析による機器・配管系の耐震評価においては, 周期軸方向に±10%拡張した設計用床応答スペクトルを用いることにより材料物性の不確かさによる影響を考慮している。 本資料は, 建物-機器連成解析における・・・ (新)本資料は, 建物-機器連成解析における・・・	2022/7/21	
14	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.8	原子炉建物部分の鉛直方向の地震応答解析モデル図の表記を, 原子炉建物地震応答解析モデルと原子炉本体地震応答解析モデルの記載の整合を図るため適正化しました。	2022/7/21	
15	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.10	Ss-N2に関する説明文を, 表2-2の注記に追加しました。 [追記内容] 注記*1: 基準地震動Ss-N2 は, 2000 年鳥取県西部地震の賀祥ダム(監査廊)の観測記録に基づき策定したものであることから, 原子炉本体地震応答解析モデルへの入力として, Ss,Sd-N2(NS)をNS,EW 方向入力し, Ss,Sd-N2(EW)をNS,EW 方向入力する。	2022/7/21	
16	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.38	記載適正化に伴いページ番号を変更したことに伴い, 目次を適正化しました。	2022/7/21	
17	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.38,67,99,227	検討の位置づけであるため記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)妥当性確認 (新)影響確認	2022/7/21	
18	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.42,178	原子炉建物部分の鉛直方向の地震応答解析モデル図の表記を, 原子炉建物地震応答解析モデルと原子炉本体地震応答解析モデルの記載の整合を図るため適正化しました。	2022/7/21	
19	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.48,57,69,72,78,80,84,95	設置許可時の資料のマスクング箇所と統一を図るため, マスクング箇所を適正化しました。	2022/7/21	
20	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.57	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)※ 計画時の枚数 (新)注記*: 計画時の枚数	2022/7/21	
21	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.99,121,122,146,147	影響検討で使用した地震動を明確にすることを目的に, 検討に使用した地震動を追記しました。	2022/7/21	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
22	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.99,100,105, 106,153~176	原子炉圧力容器スタビライザのばね定数の算定方法をFEMに変更したことによる地震応答への影響を確認するために、RPVスタビライザのばね定数影響検討を比較ケース3として、追記しました。	2022/7/21	
23	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.109~149	図2.2.2-5及び図2.2.2-6を追加したことにより、図2.2.2-5以降の図番を見直しました。	2022/7/21	
24	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.147	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)②/① (新)②/①	2022/7/21	
25	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.150	記載表現の適正化を目的に、表2.2.2-11の表題を適正化しました。(下線部参照) (旧)ガンマ線遮蔽壁頂部における原子炉圧力容器が卓越する第4次振動モードの固有周期と床応答加速度 (新)ガンマ線遮蔽壁頂部における原子炉圧力容器の振動が卓越する第4次モードの固有周期と床応答加速度	2022/7/21	
26	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.150	固有周期の単位の記載を(秒)から(s)に誤記を修正しました。 また、①②の記載位置を適正化しました。	2022/7/21	
27	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.177	鉛直方向の動的解析の必要性について記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)既工認においては、動的地震動を水平方向に対してのみ考慮しており、設計の進捗に合わせて、段階的にPCV-RPVモデルとRPV-Rinモデルの2種類の水平方向地震応答解析モデルを用いていた。これに対して、今回工認では、鉛直方向応答を適切に評価する観点で、水平方向地震応答解析モデルとは別に鉛直方向地震応答解析モデルを追加する。 (新)既工認においては、動的地震動を水平方向に対してのみ考慮していたことに対して、今回工認では、鉛直方向の動的地震動が導入されたことから、鉛直方向応答を適切に評価する観点で、水平方向地震応答解析モデルとは別に鉛直方向地震応答解析モデルを追加する。	2022/7/21	
28	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.183	凡例を追加しました。	2022/7/21	
29	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.196,224	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記*1: (新)注記*:	2022/7/21	
30	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.197~223	図中に影響検討で使用した地震動を明確にしました。	2022/7/21	
31	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.226	制御棒駆動機構搬出ハッチと所員用エアロックの①応答倍率の値を適正化しました。(下線部参照) ・制御棒駆動機構搬出ハッチ (旧)1.04 (新)1.01 ・所員用エアロック (旧)1.01 (新)1.04	2022/7/21	
32	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.230	原子炉建物部分の鉛直方向の地震応答解析モデル図の表記を、原子炉建物地震応答解析モデルと原子炉本体地震応答解析モデルの記載の整合を図るため適正化しました。	2022/7/21	
33	NS2-補-027-02改01	建物-機器連成解析に関する補足説明資料	P.234,249~255	質点番号の誤記を修正しました。	2022/7/21	